



高齢者インフルエンザワクチン定期接種

Q & A

Q1:インフルエンザとはどんな病気ですか？

A1: 空気中のインフルエンザウイルスを吸い込むことで感染し、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、のどの痛み、咳、鼻水などを起こします。普通の風邪よりも全身症状が強く、気管支炎や肺炎などを合併して重症化しやすいのが特徴です。また、流行が始まると短期間に小児から高齢者まで多くの人が感染し、特に65歳以上の高齢者や慢性疾患患者の死亡率が高くなります。

Q2:ワクチンの予防効果はどれくらい続きますか？

A2: 有効性は世界的にも認められ、高齢者の発病防止、重症化防止に有効です。
なお、接種を受けてから抵抗力がつくまでに2週間程かかり、その効果は約5か月間とされています。
※より有効性を高めるためには、流行する前(12月中旬まで)に接種を受けることが必要です。

Q3:副反応はありますか？

A3: 注射の跡が赤みを帯びる、腫れる、痛むことや、微熱や寒気、頭痛や全身のだるさなどがみられることがあります。通常2～3日のうちに治ります。また、接種後、数日～2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害の症状が現れることがあります。
そのほか、非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などが現れることもあります。

Q4:対象年齢はいくつですか？

A4: 対象者は、接種日に65歳以上の方(今回予診票が配布された方が対象者です)と、60歳以上65歳未満で心臓や腎臓、呼吸器に重い病気のある方です。
なお、予防接種を受ける義務はありませんので、ご本人が接種を希望する場合のみ接種してください。

接種を受ける本人に麻痺などがあり同意書に署名できない場合や、認知症状があつて正確な意思の確認が難しい場合などは、家族やかかりつけ医によって慎重に本人の意思確認をして接種適応を決定します。(最終的に確認できない場合、予防接種法に基づく接種はできません。)

* 裏面もお読みください ⇒



高齢者インフルエンザワクチン定期接種

注意事項

予防接種を受けることが出来ない人

- ・ 明らかに発熱している方(通常は37.5度を超える場合)。
- ・ 重い急性疾患にかかっている方。
- ・ 予防接種液の成分によってアナフィラキシーショック(※)を起こしたことがある方。
(※通常、接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性の“じんましん”などを伴う重いアレルギー反応のこと)
- ・ その他、かかりつけの医師に「予防接種を受けないほうが良い」と言われた方。

予防接種を受けるに際して、医師とよく相談しなければならない人

- ・ 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、その他慢性の病気で治療を受けている方。
- ・ 過去に予防接種で接種後2日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状の見られた方。
- ・ 過去に“けいれん”(ひきつけ)を起こしたことがある方。
- ・ 中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことがある方。
- ・ インフルエンザ予防接種の成分、または鶏肉・鶏卵・その他の鶏由来のものに対してアレルギーがあると言われたことがある方。

接種を受けた後のこと

- ・ 接種当日は、激しい運動や多量の飲酒は避けてください。
- ・ 入浴は問題ありませんが、高熱接種した部分を擦る(こする)ことは止めましょう。
- ・ 接種後(特に24時間以内)は体調に注意し、高熱や体調の変化、その他の異常反応がある場合は医師に相談してください。

副反応が起こった場合

- ・ 接種後、まれに副反応が起こることがあります(予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重くなって現れることもあります)。接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、体調の変化が現れた場合は、速やかに医師(医療機関)の診察を受けてください。